

はちもりたい 鉢森平(7)遺跡 発掘調査速報

鉢森平(7)遺跡は、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の史跡ニツ森貝塚から約2km西、ニツ森川の北側に面した台地に位置しています。国道394号線の改築に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが昨年度から調査を行っており、現在も調査中です。発掘調査の成果をまとめた発掘調査報告書は来年度末に刊行予定です。

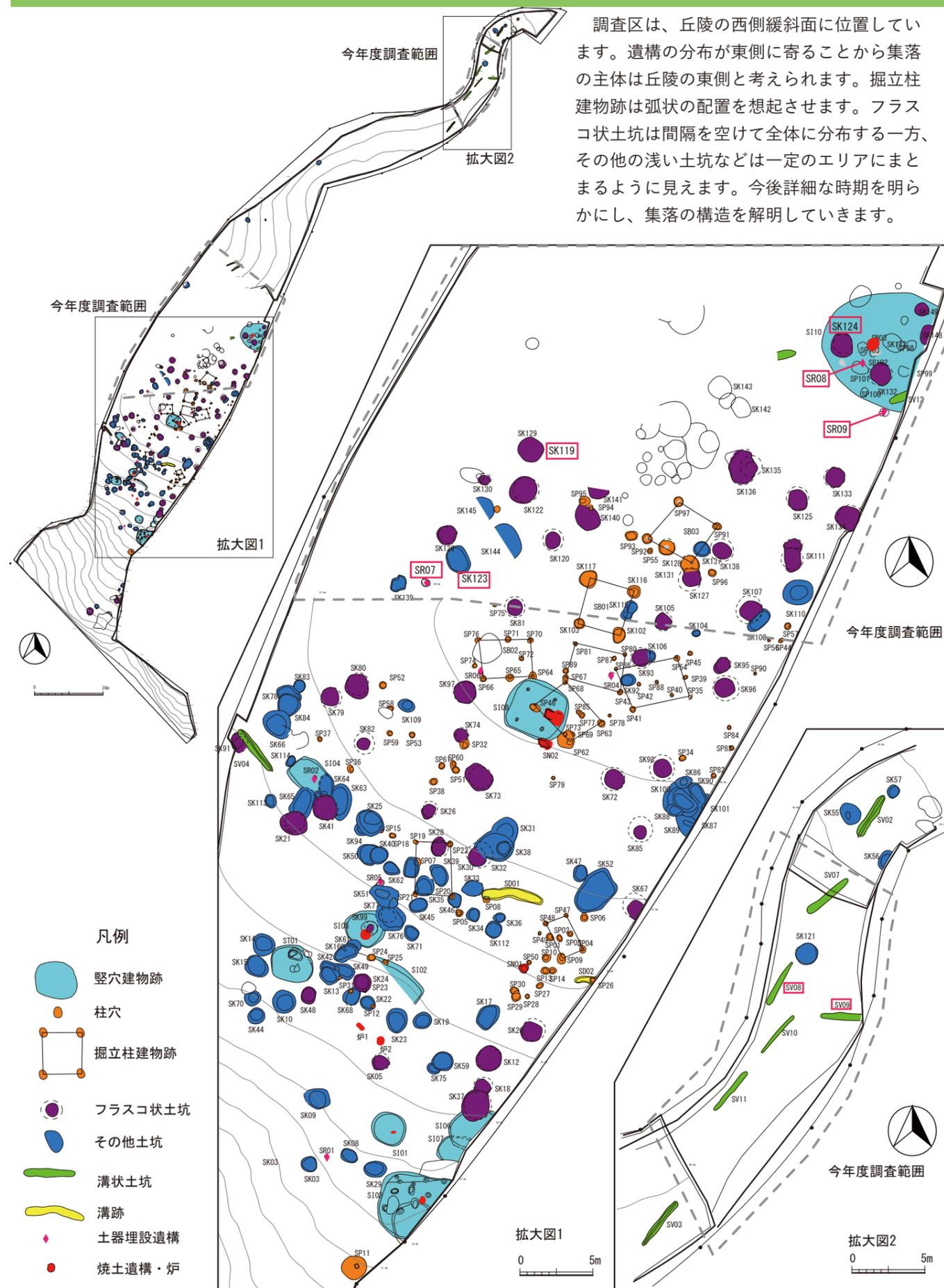
2か年の調査により、遺跡から縄文時代の集落と狩猟場が見つっています。集落はニツ森川から北側に向かって展開し、狩猟場は遺跡の北側に広がっています。調査により、今から約3,000年前の縄文時代の後期前葉を中心とした遺構が見つかりました。竪穴建物跡10棟、掘立柱建物跡8棟、土坑140基、土器埋設遺構9基などの遺構があります。

周辺地域では、縄文時代前～中期の史跡ニツ森貝塚に続く集落の様相が不明でした。鉢森平(7)遺跡は、その時期の拠点集落として重要な遺跡です。周辺には、後期中葉の猪ノ鼻(1)遺跡(「坪川流域の遺跡」展で展示中)があり、小川原湖西側では前～後期にかけて、ニツ森貝塚→鉢森平(7)遺跡→猪ノ鼻(1)遺跡のように、集落が場所をかえて長期間にわたり営まれていたと考えられます。



遺構配置図

調査区は、丘陵の西側緩斜面に位置しています。遺構の分布が東側に寄ることから集落の主体は丘陵の東側と考えられます。掘立柱建物跡は弧状の配置を想起させます。フラスコ状土坑は間隔を空けて全体に分布する一方、その他の浅い土坑などは一定のエリアにまとまるように見えます。今後詳細な時期を明らかにし、集落の構造を解明していきます。



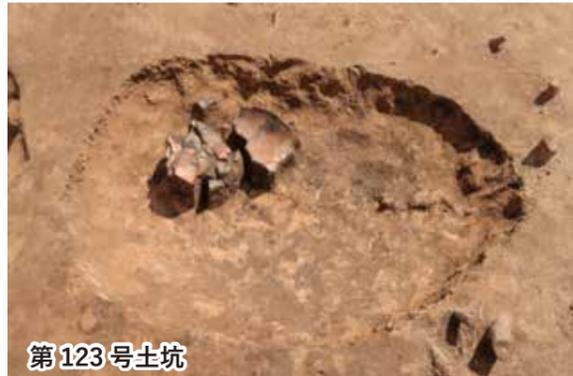
遺構・遺物

土坑

遺跡から最も多く見つかった遺構で、中でも断面が三角形のフラスコ状土坑(119・124号)が多く、浅い土坑(123号)もあります。



第119号土坑



第123号土坑



第124号土坑

第119号土坑は、堆積土から多くの土器とともに、炭化物や焼土(オレンジ色の土)が幾層にも重なった状態で見つかりました。炭化物は、木本類の割材や枝材、草本類の茎が良好に残存していました。土器は、深鉢や浅鉢など複数個体が良好な状態で出土しました。土坑の中で火を焚いていた可能性もあります。

第124号土坑は深さが2m以上と、遺跡内で最も深い土坑です。底面付近からは1個体の土器が投げ捨てられたのか、壊れた状態で出土しました。

第9号土器埋設遺構



土器検出

土器が6個体埋められた遺構が見つかりました。精査をすすめると、2個の土器それぞれの中から、入れ子状に壺がみつかりました。



入れ子状の壺検出

第8号土器埋設遺構



貝検出1



貝検出2

土器の中から貝が出土しました。貝は薄い二枚貝のようで、幾重にも積み重なって入っています。

溝状土坑



第8号溝状土坑



第9号溝状土坑

遺跡の北東部(拡大図2)では、縄文時代の落とし穴と考えられる溝状土坑が等高線に沿って見つかりました。南側の集落域とは異なり、狩猟場として使用されていたことがわかります。

遺物出土状況

今年度も土偶やキノコ形土製品などの目を引く遺物が数点出土しています。土偶の足部はO脚に膝が広がると思われ、指は7本表現されています。



土偶足部(第119号土坑)



キノコ形土製品(第7号土器埋設遺構)

かざりゆみ

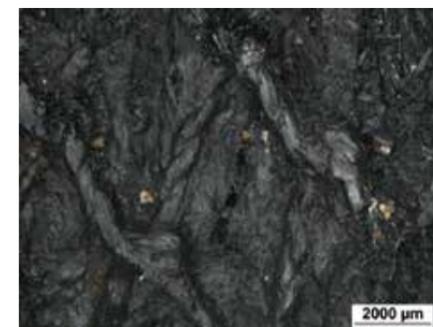
飾弓の保存処理と自然科学分析



保存処理前



保存処理後



組紐拡大



臺股(かえるまた)結び

0 5cm

昨年度出土した飾弓は、専門業者の(株)吉田生物研究所に委託し、保存処理や様々な自然科学分析を行いました。

飾弓の装飾部は、2層構造で上が組紐、下に有機質の層があります。組紐は撚った紐を臺股(かえるまた)結びをしています。今年度は、X線CTを用いて有機質の層など、内部構造の分析を予定しています。